

第10回根室市役所庁舎建替検討委員会記録

日 時 令和3年2月24日（水）午後6時00分～午後7時30分

場 所 市役所大会議室

出席者 別紙 出席者名簿のとおり

1. 開会

市長挨拶

委員の皆様にはこれまで庁舎建設に向けて精力的にご審議をいただき、ありがとうございます。皆様から貴重なご意見やご提言をいただき、基本構想、基本計画、そして基本設計という段階まで進んでまいりました。

今後は庁内検討組織での議論や、議会と協議を行いながら実施設計に着手し、令和6年度の供用開始を目指し作業を進め、市民皆様に親しまれる庁舎となるよう心がけてまいります。

今回の基本設計をもって委員の委嘱期間は終了となりますが、引き続き皆様には実施設計の概要版など進捗状況を情報提供させていただきたいと考えておりますので、お気づきの点がございましたらいつでも事務局にご意見をお寄せいただきたいと思います。

結びに、委員皆様のこれまでのご尽力に改めて感謝申し上げますとともに、本日が最後の委員会となりますが活発な議論をよろしくお願い申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

（市長は公務により退席）

2. 議事

【協議事項】

(1) 庁内レイアウト（案）について（説明：事務局）

資料1に基づき説明

(2) 第9回根室市役所庁舎建替検討委員会（書面会議）に対する意見について（説明：事務局）

資料2に基づき説明

（A委員）

④階高の設定については、デザイン性を重視し階高を揃えることでコスト高

になるのであれば、議場のみ高さを出すということで良いと思う。

また、⑤特別職の執務室を近くに配置するという点については、庁内でよく検討された結果ということが伝わったので、現状の配置で良いと考える。

(D委員)

私の意見についても、いただいた回答で問題ない。

(3) 根室市新庁舎建設基本設計書概要版(案)について

(説明：事務局)

資料3に基づき説明

(A委員)

A-3について、庁舎敷地は国道44号に面していることもあり、海外や国内の利用者も多くなると思うが、敷地に段差やステップを設け、庁舎敷地とそれ以外をわかりやすく区分するなどの工夫を行うことで、車両が移動する際の安全性に配慮できるのではないかと思う。

(事務局)

いただいたご意見については、内部でも検討を行いたい。

(F委員)

ネムロふるさとギャラリーと市民交流サロンは、絵を見る限りどう差別化するのかわかりにくいと感じた。ギャラリーと聞くと例えば大坂なおみ選手の展示などを行うイメージを持つが、イベント等も行う場のようなので、4階の市民交流サロンとの使い分けはどのようになるのだろうか。ここの使い方についてははっきりと差別化ができるようになるともっと良くなるのではないかと思う。ギャラリーで展示を行うのであれば、隣のエントランスホールも明るい方が良いと思うが、明るくしすぎて展示の雰囲気が壊れてしまうこともあるので、照明の演出等も具体的な話をしていくうえで必要になるのではないか。札幌の創世スクエア内にある図書館は、本や美術品を飾るスペースや、30~40人程度の席を用意して簡単な講演会やイベントなどを行えるようなスペースがあり、個人的にはこのギャラリーにそのようなイメージを持っている。

また、私は報道のカメラマンをやっており、市役所の撮影を行うとき、よく市役所の看板と共に庁舎を写す構図が多いが、今回の設計図にはその看板がなかった。決してそれが欲しいという訳ではないのだが、東京や札幌などでは、

建物の壁や門などを活用して中で行っているイベントや行事などをお知らせしているケースがあるので、そのような外へのアピールも必要ではないかと感じた。そういったスペースがないと、ガラス面にポスターを貼り、光を潰してしまうことにもなると思うので、あえて壁を作るということも必要になるのではないか。

(事務局)

ネムロふるさとギャラリーと市民交流サロンの使い分けについては、事務局でも検討を行っているところであり、1階のネムロふるさとギャラリーは談話する場所や会議を行うスペースなど、主に大人数での利用を想定しており、4階の市民交流サロンは景色を楽しむ場のほか、学生の勉強の場などとしての活用を考えている。

また、庁舎の看板については、A-12の立面図のとおり、南面に根室市役所の表示を行い、釧路方面からの視認性は高くなっているが、西面は庁舎の顔としても重要な部分となるので、今後検討を行う必要があると考えている。

壁面の活用については、ご指摘のとおりポスターやサイネージの設置を考慮して今後の実施設計で内装等をよく検討したいと思う。

(C委員)

ネムロふるさとギャラリーは壁がないと使いづらいが、あまり大きな窓も必要ないと思うので、検討していただきたい。

(B委員)

耐震については私も事務局と共に検討をしてきたところであり、これで良いと思うが、設備計画については環境への配慮として何か指標に基づいて管理を行っていくのか。持続可能な、という観点からもそのような見通しはあるのかどうか教えていただきたい。

(事務局)

以前にもご意見をいただいたことがあったが、ZEBや100%ではなくてもNearly ZEB、ZEB Readyなどの実現に向けて、建物にまつわるエネルギーの消費量を削減することや0に近づけるために色々と検討を行ったところである。エネルギーの消費については機器の選定により消費量を抑制することができるが、エネルギーを創り出すということについては、現在太陽光発電の導入のみとなっている。他自治体で活用している地中熱については、この敷地の環

境として、市役所周りに酒蔵の水脈があり、地面を掘ることへのリスクが高いことから、導入が難しいと判断したところであるが、省エネルギーや環境への配慮については、今後の実施設計の中で具体的な数値目標を持ちながら、できる限りの取り組みを行っていきたいと考えている。

ZEB…建物の消費エネルギーと創エネルギーの収支を0%以下まで削減
Nearly ZEB…建物の消費エネルギーと創エネルギーの収支を25%以下まで削減
ZEB Ready…建物の消費エネルギーと創エネルギーの収支を50%以下まで削減

(H委員)

閉庁時における食堂や市民交流サロンの開放にあたって、使用できるのはエレベーターのみで階段は施錠され使えないことになるが、例えば4階を利用中に地震が発生しエレベーターが止まった場合には逃げる術がなくなってしまう。執務室へは入れないようになっているようなので、階段は利用できるようにするべきではないか。

(事務局)

閉庁時の利用方法については、内部でも様々な議論を行ってきたところである。利用する方が間違えて他の階に移動してしまうことや、特に3階は階段の前がすぐ執務室でセキュリティラインが確保できないことから、何かしらの対策を階段部分に講じる必要があると考えており、現在は平常時に出入りはできないが、緊急時や災害時に開く管理扉などの設置を検討している。

(B委員)

消防法などでは火災の発生時などを考慮した基準があると思うが。

(事務局)

管理扉にはパニックオープン機能というものがあり、普段は制御されているが、火災や災害などが発生した場合には警報を受けて、避難ができるよう施錠を解錠する仕組みとなっている。当然こういったものを採用し、平時は立ち入りできないが緊急時には自動的に解錠され出入りができるような運用を検討している。

(I委員)

この1年3か月という期間で皆さんに計画をまとめていただき、これから新

庁舎が出来上がるのが本当に楽しみである。皆さんどうもありがとうございます。

(K委員)

キッズコーナーの位置について、正面玄関が近いため、手続き中などに子どもが勝手に外に出ていかないか心配である。

(事務局)

キッズコーナーについては、もともとエントランスホールへの配置を検討していたが、手続き中に保護者の目が離れてしまい危ないのではということもあり、子ども連れの来庁者が多く利用することも子育て課や保健課付近へ配置し、目の届く範囲で手続きや相談を行えるよう検討したところである。

(L委員)

乳幼児健診の実施やキッズスペースの設置など、子育て世帯が新庁舎に期待する設備に配慮していただいたことを嬉しく思う。新庁舎の建設は今後数十年先の未来を見据えたものであり、将来の根室市の子どものためにもなると思うので、良いものを作ってくれたと思える庁舎になれば良いと思う。

また、防災に関する備えや市のランドマーク的な存在となる庁舎はもちろんのこと、職員が働きやすい環境の庁舎となるようにしていただきたい。

(M委員)

防災計画において、停電時にはスマートフォンなどの充電コーナーを設置するとあったが、どこに設置するのか。

(事務局)

A-19に1階の計画が記載されているが、ネムロふるさとギャラリーの窓側の一部に充電コーナーを設置することを考えている。

(M委員)

折角のふるさとギャラリーの一角に充電コーナーを設けても問題はないのか。

(事務局)

以前のブラックアウトの際には現庁舎のロビーを活用して約20～30台程度

の端末が充電できるスペースを設置したこともあり、スペース的にもこのネムロふるさとギャラリーやエントランスホール部分を利用するのが良いと考えている。

(D委員)

災害発生時には応急危険度判定士などが来ることになると思うが、その対応は2階で行うのか。

(事務局)

2階の大会議室について、初動期は一時避難スペースとして利用し、応急対応期に移行した際にご意見のとおり、応急危険度判定士や応援職員の活動や待機をする場所としての活用をイメージしている。

(D委員)

応急危険度判定士や応援職員については、地元だけではなく、地方からも応援に来ることになると思うので、必要となる物品の備蓄するスペースなどについてもよく検討していただきたい。

3. その他

(委員長)

本委員会については10回にわたり開催したところであり、コロナ禍ではございましたが、基本構想の策定から基本計画、基本設計と、委員の皆さまには大変貴重なご意見をいただき、専門的な意見や市民目線に立った意見など幅広く盛り込むことができました。

基本設計の完成をもって本委員会は解散となりますが、引き続き今後も事務局へ意見を寄せていただきたいとのことです。何かお気づきの点がございましたら事務局まで連絡をいただきたいと思います。

最後に、委員皆さまのこれまでのご協力に敬意を表すとともに、愛される庁舎となるよう祈念して挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

4. 閉会